

## 音楽科（器楽）

音楽科（器楽）について、以下の観点に基づき、発行社ごとに教科書を調査・研究した。

### 選定の観点

- 1 学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。
- 2 習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。
- 3 生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。
- 4 日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、我が国および諸外国における弦楽器、管楽器、打楽器等を用いた様々な楽曲が古典から現代にわたって、適切な分量でバランスよく取り上げられていること。
- 5 多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付き、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること。
- 6 生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。
- 7 系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。
- 8 表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

## 音楽科（器楽）

### 調査研究の結果の概要

#### ■教育出版「中学器楽 音楽のおくりもの」

表紙の表裏に、この教科書で学習できる楽器のイラストや写真が掲載され、目次には学習する楽器ごとに学習の流れが示されており、1年間でどんな楽器に出会い、知識及び技能を身に付けることができるのかを知り、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されているとともに、各教材では、題材ごとの学習目標と活動のポイントが示されることで、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう工夫がされている。

新出のリコーダーの運指が、ページの左右端に見やすく図示され、生徒が演奏する際に確認できるよう工夫されている。また、リコーダーでのサミング時のサムホルの開き具合、箏の親指による基本的な奏法など、楽器を演奏する上で重要な基礎的な技能について、様々な角度からの写真を用いて詳細な箇所が解説され、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための手がかりとなるよう優れた工夫がされている。

「深めてみよう」において、新たな音や奏法を使って演奏する課題が提案されており、生徒の探究意欲を高めるための工夫がされている。また、「Let's Try」では、難易度が高い曲も含めて楽しんで合奏できる多様な楽曲を取り上げ、奏法に関する具体的な指示を記載することで、生徒が興味・関心をもって主体的・対話的に取り組めるよう工夫されている。

篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関しては、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられ、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されている。また、箏の学習では五線譜と日本古来の縦書きの楽譜とを併用したり、三味線の学習では演奏方法だけでなく楽器の準備方法を示したりするなど、初めて和楽器に接する生徒が興味・関心をもちやすくするための工夫がされているとともに、アルトリコーダー・篠笛・箏・三味線の学習で「さくらさくら」を共通教材として取り扱うことで、生徒がそれぞれの楽器の魅力を感じ、和楽器への関心を高められるよう工夫されている。

#### ■教育芸術社「中学生の器楽」

巻頭で、育成すべき3つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素を明示することにより、生徒がどの教材でどのような学力を身に付けることができるのかが一目で分かるよう工夫されている。また、器楽・創作に関わる1年間の学習を俯瞰できるようになっており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。さらに、アンサンブル楽譜のページでは、「音楽を形づくっている要素」を窓口に、演奏する際に思考・判断し表現するための学びの視点を示し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう優れた工夫がされている。

新出のアルトリコーダーの運指を、ページの左右端に見やすく図示したり、基本的な奏法を身に付けるための練習のポイントを明示したりと、様々な打楽器の奏法を、写真を活用して丁寧に示すことで、生徒が楽器演奏に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう工夫がされている。

和楽器を用いたアンサンブル曲や、生徒にとって親しみやすい曲を多く取り上げることで、和

楽器を一層身近なものとして捉えることにつなげ、探究意欲を喚起できるよう工夫されている。また、リコーダーの題材での「音の響かせ方」「音を合わせるときのコツ」、箏の題材での「余韻を大切に」「糸の響き」、太鼓の題材での「工夫しよう」等、より美しい音色や響き、ハーモニーで演奏するための手がかりを記載したコーナーを設けることで、より豊かな音楽表現を目指して探究したいという意欲を高め、主体的・対話的に学習を進めるために優れた工夫がされている。

篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関しては、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられ、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されている。また、箏の楽譜は、日本古来の縦書きの楽譜が重視されており、日本の伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとって取り組みやすいよう工夫されている。さらに、生徒の伝統音楽への関心を高めるため、巻末の「楽器でMelody」のページで、和楽器を用いてポピュラー音楽や映画音楽、歌唱共通教材のメロディの楽譜が掲載されており、和楽器を学習する際に生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう優れた工夫がされている。

※詳細の結果・データは、観点別資料及び観点別・視点別評価資料に記載。

選定の観点		選定の視点		教育出版	教育芸術社
1	学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。	1	指導事項(学習のめあてや振り返り活動等)と〔共通事項〕の適切な工夫	○	◎
		2	基礎的奏法や楽典、楽器に関する記述	◎	○
		3	効果的な写真やイラスト、図、表の充実	◎	○
2	習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。	1	指導事項と〔共通事項〕の関連	○	○
		2	問題解決的な学習や言語活動の充実の工夫	○	◎
		3	思考力、判断力、表現力等の育成に向けた工夫	○	○
3	生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。	1	探究意欲を高め、主体的・対話的に学ぶための工夫	○	◎
		2	発展的な学習活動につながる工夫	○	○
		3	ICT機器を活用するなど、個別最適な学びと協働的な学びを展開するための工夫	○	○
4	日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、我が国及び諸外国における弦楽器、管楽器、打楽器等を用いた様々な楽曲が古典から現代にわたって、適切な分量でバランスよく取り上げられていること。	1	多様な楽器・楽曲の取扱い	○	○
		2	表現領域と鑑賞領域の適切な関連	○	◎
		3	教材の難易度や分量の適切さ	○	○
5	多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付き、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること。	1	諸外国の楽曲の取扱いの工夫	○	◎
		2	和楽器に関わる教材の充実	○	◎
6	生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。	1	人権教育の推進	○	○
		2	道徳教育の推進	○	○
7	系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。	1	題材構成の系統性・発展性	○	○
		2	他教科や教育課題等との関連	○	○
		3	他校種との接続	○	○
		4	家庭・地域との連携	○	○
8	表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。	1	文字や写真、図表等の適切さ、正確性、使いやすさ	○	○
		2	ユニバーサルデザインの視点	○	○
		3	装丁や編集の適切さ、堅牢性の工夫	○	○
		4	用紙、インク等の環境面への配慮	○	○

## 【音楽（器楽）】観点別資料

### 【選定の観点1】

学習課題や目標の明示、適切なまとめや振り返り活動の設定など、生徒が基礎的・基本的な知識及び技能の内容を確実に習得できるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○表紙の表裏に、この教科書で学習できる楽器のイラストや写真が掲載され、目次には学習する楽器ごとに学習の流れが示されており、1年間でどんな楽器に出会い、知識及び技能を身に付けることができるのかを知り、見通しをもって学習に取り組むことができるよう工夫されている。各教材のページには、題材ごとの学習目標と活動のポイントが示され、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう工夫がされている。</p> <p>○巻末の綴じ込みページに「リコーダー運指表」「ギター&amp;キーボード コード表」が掲載され、図や写真を用いて運指やコードが分かりやすく図示されている。同じ楽曲をソプラノリコーダーとアルトリコーダーの両方で演奏できるよう楽譜が掲載されているとともに、新出のリコーダーの運指がページの左右端に見やすく図示され、生徒が演奏する際に確認できるよう工夫されている。リコーダーの題材では、「一つの音で吹いてみよう」「左手で吹こう」「右手を加えてみよう」というように、学習の流れがスモールステップで構成されており、楽器演奏を苦手とする生徒も含めて、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○リコーダーでのサミング時のサムホルの開き具合、箏の親指による基本的な奏法など、楽器を演奏する上で重要な基礎的な技能について、様々な角度からの写真を用いて詳細な箇所が解説され、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための手がかりとなるよう優れた工夫がされている。</p>	<p>○巻頭で、育成すべき3つの資質・能力とそれに対応する学習内容や教材、音楽を形づくっている要素を明示することにより、生徒がどの教材でどのような学力を身に付けることができるのかが一目で分かるよう工夫されている。また、器楽・創作に関わる1年間の学習を俯瞰できるようになっており、生徒が見通しをもって学習に取り組むことができるよう配慮されている。さらに、アンサンブル楽譜のページでは、「音楽を形づくっている要素」を窓口に、演奏する際に思考・判断し表現するための学びの視点を示し、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○巻末に「リコーダーの運指表」「ギター/キーボード コード表」のページを設け、運指やコードを分かりやすく図示し、生徒が演奏する際に確認できるよう工夫されている。また、効果的に技能を習得できるよう新出のアルトリコーダーの運指をページの左右端に見やすく図示したり、基本的な奏法を身に付けるための練習のポイントを明示したりと、様々な打楽器の奏法を、写真を活用して丁寧に示すことで、生徒が楽器演奏に関する基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できるよう工夫がされている。</p> <p>○ギターのフレットの押さえ方、三味線のばちの扱い方等、楽器を演奏する上で重要な基礎的な技能について、角度や拡大の倍率を工夫した写真を活用して解説されている。また、演奏する時の姿勢、楽器の構え方、リコーダーのくわえ方、篠笛の口の当て方等、留意すべき点を図示し、基礎的・基本的な知識及び技能を習得する上で手がかりとなるよう工夫されている。</p>

### 【選定の観点2-1】

習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○「Let's Play!」のページでは、[共通事項]に示された「音楽を形づくっている要素」を窓口に学習目標が示され、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されている。また、「音のスケッチ」のコーナーでは、グループで協働して表現を工夫し演奏するという学習活動を掲載し、話し合い活動や表現活動等の言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力等が身に付けられるよう工夫されている。</p>	<p>○アンサンブルの楽譜のページでは、[共通事項]に示された「音楽を形づくっている要素」を窓口に、演奏する際に思考・判断し表現するための学びの視点を示し、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組み、問題発見・課題解決的な学習を進められるよう、また、音楽的な見方・考え方を働かせて、言語活動を通して考えを深めたりできるよう、工夫されている。</p>

【選定の観点2-2】

習得した知識及び技能を活用しながら、生徒が問題発見・解決的な学習、話し合い活動や表現活動等の言語活動に取り組み、多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○「表現の仕方を調べてみよう」のページを設けることで、楽器のカテゴリーごとに表現の仕方を音楽的な見方・考え方を働かせて整理したり、「話し合おう」のコーナーでの「それぞれの楽器の特徴を踏まえて、共通点や相違点について考えてみよう。そして気付いたことを友達に紹介しよう。の指示によって多面的・多角的に考察する視点を示すことで、生徒が習得した知識及び技能を活用しながら、問題発見・解決的な学習や言語活動に取り組むことができるよう工夫されている。</p> <p>○楽曲ごとに示された学習目標が「～表現を工夫しよう。」という表現を用いて示され、それを受けて、「聴いてみよう」の活動で生徒が特徴を聴き取ったり、よさを説明したりする活動等により、生徒が言語活動や演奏等の活動を通して、生徒が多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫がされている。</p>	<p>○アンサンブルセミナーのページでは、学習目標に迫るための具体的な学習活動と共に、「音楽を形づくっている要素」を窓口とした問いかけを「考えたいポイント」として示すことで、生徒が課題意識をもって主体的に学習に取り組むことができるよう工夫されている。また、「学びのコンパス」のコーナーでは、学習の手順を示し、主体的・対話的で深い学びが実現できるよう配慮するとともに、キャラクターの吹き出しによって、思考・判断・表現を行うための手がかりや、多面的・多角的に考察するために有効な手立てが示されており、言語活動の充実につながるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○楽曲ごとに示された活動文が「～にふさわしい表現を工夫しましょう。」という表現を用いて示されていることで、生徒が多面的・多角的に考察しながら、思考力、判断力、表現力等を身に付けられるよう工夫がされている。</p>

【選定の観点3】

生徒が主体的・対話的に学ぶことができるよう、能動的・体験的な活動など探究意欲を高めるための工夫・配慮がなされ、さらに学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、ICT機器の活用も含め、個別最適な学びと協働的な学びを展開しやすいよう工夫・配慮されていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○「深めてみよう」のページで、新たな音や奏法を使って演奏する課題が提案されており、生徒の探究意欲を高めるための工夫がされている。また、「Let's Try」のページで、難易度が高い曲も含めて楽しんで合奏できる多様な楽曲を取り上げ、奏法に関する具体的な指示を記載するなどし、生徒が興味・関心をもって主体的・対話的に取り組めるよう工夫されている。</p> <p>○巻末に「名曲旋律集」のページを設けて、一般教科書でも扱っているクラシックの名曲や、ゲーム音楽の旋律楽譜を掲載し、学習したことを生かして表現を工夫し、演奏する活動を通して、発展的な学習に取り組みやすいよう工夫されている。</p> <p>○演奏の練習をしたり、より詳しく情報収集したりする際に、ICT機器を利用することが促されており、個別最適な学びを展開できるよう配慮されている。</p>	<p>○和楽器を用いたアンサンブル曲や、生徒にとって親しみやすい曲を多く取り上げることで、和楽器を一層身近なものとして捉えることにつなげ、探究意欲を喚起できるよう工夫されている。リコーダーの題材での「音の響かせ方」「音を合わせるときのコツ」、箏の題材での「余韻を大切に」「糸の響き」、太鼓の題材での「工夫しよう」等、より美しい音色や響き、ハーモニーで演奏するための手がかりを記載したコーナーを設けることで、より豊かな音楽表現を目指して探究したいという意欲を高め、主体的・対話的に学習を進めるために優れた工夫がされている。</p> <p>○「バンドの世界をのぞいてみよう」のページで、生徒にとって親しみやすい楽曲のバンドスコアを掲載し、学んだことを活用して発展的な学習に取り組みやすいよう工夫がされている。</p> <p>○全ての教材において、演奏の練習をしたり、より詳しく情報収集したりする際に、ICT機器を利用することが促されており、個別最適な学びを展開できるよう配慮されている。</p>

【選定の観点4-1】

日常生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を身に付けられるよう、我が国および諸外国における弦楽器、管楽器、打楽器等を用いた様々な楽曲が古典から現代にわたって、適切な分量でバランスよく取り上げられていること。

発行者名	17 教出	27 教芸
	<p>○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」のページで、和楽器、諸外国の楽器、現代の楽器を掲載し、生徒が様々な時代や国々の楽器に出会い、その音色や演奏に触れることができるよう工夫されている。また、様々な楽器に関する基礎的な奏法を習得するための練習曲に加え、日本で歌いつがれている曲、諸外国の民謡、クラシックの名曲、アニメや映画の曲、ポピュラーソング等、幅広い楽曲が掲載され、生徒が様々な楽器の音色や演奏に触れることができるよう配慮されている。</p> <p>○巻末の「名曲旋律集」では、鑑賞領域で扱う楽曲の旋律を掲載してリコーダーで演奏できるように取り上げられており、鑑賞活動と表現活動の関連を図れるよう工夫されている。</p> <p>○難易度の低い楽曲から、様々な編成で編曲された難易度の高いアンサンブル曲まで、技能の習得状況や生徒の実態に合わせて、教材を選択して柔軟に取り扱うことができるよう配慮されている。また、リコーダーや箏など演奏の難易度が中庸で授業で扱いやすい楽器については、技能を習得するための練習曲の分量が充実している一方で、尺八や三味線など演奏の難易度が高い楽器については、親しみやすいように工夫されている。</p>	<p>○ギターの記事では、3種類のギターの紹介を掲載したり、バンド譜を掲載するなど、楽器への興味・関心を高められるよう工夫されている。また、巻末の「楽器の図鑑」のページでは、日本の楽器や、世界の諸民族の楽器等を一覧にすることで、生徒が様々な時代や国々の楽器に出会えるよう工夫されている。様々な楽器に関する基礎的な奏法を習得するための練習曲に加え、日本の名曲、諸外国の民謡、クラシック、ミュージカル、映画の名曲、ポピュラーソング等、幅広い楽曲が掲載され、生徒が様々な楽器の音色や演奏に触れることができるよう配慮されている。</p> <p>○鑑賞領域で扱う楽曲である「春」「ブルタパ」「勸進帳」などが掲載されており、鑑賞の学習内容をさらに深めたり、習得した知識及び技能を活用したりと、鑑賞活動と表現活動の関連を図れるよう優れた工夫がされている。</p> <p>○難易度の低い楽曲から、様々な編成で編曲された難易度の高いアンサンブル曲まで、技能の習得状況や生徒の実態に合わせて、教材を選択して柔軟に取り扱うことができるよう配慮されている。また、リコーダーやギター、琴など、授業で扱いやすい楽器に関しては練習曲の分量が充実している一方で、篠笛や尺八など難易度が高い楽器に関しては簡単な練習曲に絞ることにより、生徒が取り組みやすいよう工夫されている。</p>

【選定の観点5-1】

多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付き、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	17 教出	27 教芸
	<p>○アメリカ、イタリア、イギリス、フランス、イングランド等の楽曲、クラシックからポピュラーソングまで、諸外国の様々な曲が幅広く扱われるとともに、和楽器と西洋の楽器だけではなく、世界の諸民族の楽器が紹介されており、楽器の背景にある文化や伝統について調べる学習を通して、生徒が多様な音楽文化のよさを味わうことができるよう工夫されている。</p>	<p>○アメリカ、イギリス、ドイツ、チェコ、イタリア、フィンランド、南米などの楽曲、クラシックからポピュラーソングまで、諸外国の様々な曲が幅広く扱われるとともに、「アンサンブル」において、オペラやミュージカル音楽、JAZZ、ボサノヴァなど多岐にわたるジャンルの楽曲を扱うことで、幅広く学習することができ、生徒が日本だけでなく諸外国の音楽文化の豊かさに気付くことができるよう優れた工夫がされている。</p>

【選定の観点5-2】

多様な音楽のよさや美しさを味わうことを通して、生徒が我が国や諸外国の音楽文化の豊かさに気付き、それらを尊重する態度を身に付けられるとともに、和楽器を含めた伝統音楽への関心を高められるよう工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関して、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられ、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されている。また、箏の学習では五線譜と日本古来の縦書きの楽譜とを併用したり、三味線の学習では演奏方法だけでなく楽器の準備方法を示したりするなど、初めて和楽器に接する生徒が興味・関心をもちやすくするための工夫がされているとともに、アルトリコーダー・篠笛・箏・三味線の学習で「さくらさくら」を共通教材として取り扱うことで、生徒がそれぞれの楽器の魅力を感じ、和楽器への関心を高められるよう工夫されている。</p>	<p>○篠笛、尺八、箏、三味線、太鼓に関して、オリジナルの練習曲の他、わらべ歌や民謡、日本歌曲や映画音楽など、様々な楽曲が使用されていることに加え、和楽器を学習する際に、唱歌や口三味線を歌う活動が取り入れられ、生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう配慮されている。また、箏の楽譜は、日本古来の縦書きの楽譜が重視されており、日本の伝統を感じさせるだけでなく、五線の楽譜に対する苦手意識がある生徒にとって取り組みやすい工夫されている。さらに、生徒の伝統音楽への関心を高めるため、巻末の「楽器で Melody」のページで、和楽器を用いてポピュラー音楽や映画音楽、歌唱共通教材のメロディの楽譜が掲載されており、和楽器を学習する際に生徒が親しみや実感をもって伝統音楽に接することができるよう優れた工夫がされている。</p>

【選定の観点6】

生徒が人権の重要性を学び、人間としての生き方について考察できるための工夫・配慮がなされ、基本的人権の尊重の精神及び道徳性を身に付けられるよう、人権教育や道徳教育の視点に立った内容が積極的に取り上げられていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○「吹く楽器の仲間たち」「弾く楽器の仲間たち」のコラムの中で、世界各国の楽器を数多く掲載しており、楽器の背景にある文化や歴史、伝統などを調べることにより、SDGs（平等の拡充）に関連し、国際理解教育や人権教育につながるよう工夫され、生徒がグローバルな視点を持ち、それぞれのよさや美しさを感じることができるようになっていく。</p> <p>○神戸21世紀復興事業「神戸21世紀海響祭」のために作曲された「千の海響 望の章」を取り上げ、生徒が生命尊重や環境保全等、道徳教育と関連付けて学習することができるよう工夫されている。また、「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」のページに、大震災の被害から修復を経て復興を表すピアノを紹介することで、生命を尊び、環境の保全を意識するよう工夫されている。</p>	<p>○日本及び諸外国の様々な楽曲が、写真や演奏者のメッセージと共に掲載されることで、生徒が様々な国の文化や芸術を尊重する姿勢を身に付け、人権教育を推進することができるよう工夫されている。</p> <p>○和楽器の演奏に当たり、単に演奏するだけではなく、礼節を重んじ、他者を思いやる心や態度が必要であることが記述されており、生徒が学習活動を通して、礼儀、思いやりの心を体験的に身に付けることができるよう工夫されている。また、我が国の伝統的な楽器、諸外国の民族楽器の紹介も多く、伝統や文化の尊重、国際理解の視点で生徒の気付きを促し、多文化共生に関する理解を深めることができるよう工夫されている。</p>

【選定の観点7-1】

系統的・発展的に学習しやすい題材構成であることに加え、他教科等の学習内容との関連や現代的な教育諸課題との関連が想起しやすく、また他校種との接続や家庭・地域との連携についても工夫・配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○リコーダーの学習では、一つの音だけでの演奏・左手だけを用いた演奏・右手も用いた演奏・裏孔にわずかな隙間をつくる運指である「サミング」を用いた演奏・音の切り方やつなぎ方のことであるアーティキュレーションを意識した演奏というように、生徒が基礎的な技能の習得に向けて段階を踏んだ学習ができるよう、適切な教材配列がされている。また、歌唱教材を扱ったり唱歌を行ったりすること、鑑賞教材の一部を演奏したり、楽器を使用して創作活動を行うことにより、歌唱・鑑賞・創作との関連を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>○「弾く楽器の仲間たち」では、世界地図上にその国や地域発祥の弦楽器の写真が掲載されており、地理と音楽との関わりが一目で分かる工夫がされている。</p> <p>○アルトリコーダーのスマールステップによる学習は、小学校で苦手としていた生徒が取り組む際に有効である。また、小学校ですでに箏を経験した生徒のために、箏の二重奏が複数曲含まれており、小学校からの接続を意識した構成となっている。</p> <p>○和太鼓の「祭りでの太鼓演奏の例」を基に、生徒が地元の伝統芸能について興味をもって学習することができるよう工夫されている。また「音楽のチカラで人と社会を未来へつなぐ」のページでは、ストリートピアノを取り上げ、社会や地域の中で音楽を通じて人と人とのつながり生み出されることが理解できる工夫がされている。</p>	<p>○リコーダーの学習では、一つの音だけでの演奏・左手だけを用いた演奏・音の切り方やつなぎ方のことであるアーティキュレーションを意識した演奏・右手も用いた演奏・裏孔にわずかな隙間をつくる運指である「サミング」を用いた演奏・#（シャープ）やb（フラット）を用いた楽曲の演奏というように、生徒が基礎的な技能を段階を踏んで習得できるよう、適切な教材配列がされている。また、歌唱教材を扱ったり唱歌を行ったりすること、楽器ごとに代表的な曲を鑑賞したり鑑賞教材の一部を演奏したりすること、楽器を使用して創作活動を行うことにより、歌唱・鑑賞・創作との関連を図ることができるよう工夫されている。</p> <p>○「各地に伝わる郷土の祭りや芸能」を太鼓と篠笛のページに掲載し、各地に伝わる文化と音楽との関わりを知ることができ、他教科との関連が意識されている。</p> <p>○小学校から継続したソプラノリコーダーの学習が可能となるよう、アルトリコーダーの練習曲やアンサンブルにもソプラノリコーダーのパートがある楽曲を取り上げる配慮がされている。</p> <p>○巻末資料「楽しもう！和楽器の音楽」の中で、部活動を通して和楽器の合奏に取り組む中学生の姿が紹介されたり、裏表紙「私たちが受け継ぐ郷土の祭りや芸能」では、郷土音楽を演奏している写真が掲載されており、生徒が地元の伝統芸能について興味をもち、身近に感じたり愛着をもつことにつながるよう工夫されている。</p>

【選定の観点8】

表記、表現、写真、図表等が適切かつ正確であることに加え、ユニバーサルデザインの観点から、文字フォント、色の使用、紙面の構成等において見やすく読みやすいよう工夫・配慮がなされていること。また、再生紙の使用や環境に優しいインクの使用等環境への配慮がなされていること。

発行者名	
17 教出	27 教芸
<p>○1ページあたりの情報量を精選し、必要な情報を見やすく掲載するとともに、楽器ごとのインデックスが効果的に用いられ、生徒が使いやすく見やすいように工夫されている。</p> <p>○生徒の特性に応じて、判読性、視認性の高い配色とレイアウトが行われるとともに、文字はユニバーサルデザインフォント（UD書体）が使用され、生徒が学びやすいように工夫されている。</p> <p>○表紙は堅牢で手触りがよく、長期間の使用に耐えられるよう工夫されている。</p> <p>○環境にやさしい再生紙と植物油インキが使用されている。</p>	<p>○1ページあたりの情報量を精選し必要な情報を見やすく掲載するとともに、楽器ごとのインデックスが効果的に用いられており、楽器の写真などは、統一感をもって配置するなど、生徒が使いやすく見やすいように工夫されている。</p> <p>○専門家の助言を受け、全ての紙面、図版、イラストについて、識別しやすい色の組み合わせを選ぶだけでなく、境界を白い線で示すなど、視認性を高めるために様々な配慮がされているとともに、ユニバーサルデザインフォント（UD書体）が大部分に使用され、生徒が学びやすいように工夫されている。</p> <p>○表紙に、抗菌効果のある加工を施している。また、表紙は堅牢で開きやすく、丈夫で長持ちする「アジロ製本様式」を採用し、長期間の使用に耐えられるように工夫されている。</p> <p>○再生紙や植物油インキが使用され、SDGsに配慮した印刷方法がとられている。</p>